

# 神奈川県アイスホッケー連盟

## 2019年度 代議員会

### 議 案 書

日時：2019年6月30日 18：00 受付開始

18：30 開 会

会場： 神奈川県立スポーツ会館

- |       |                      |
|-------|----------------------|
| 第1号議案 | 各委員会の報告および今後の方針      |
| 第2号議案 | 2018年度 決算報告および会計監査報告 |
| 第3号議案 | 2019年度 予算（案）         |
| 第4号議案 | 県連役員の改選について          |
| 第5号議案 | 新規チームの加盟について         |

- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 資 料 1 | 2018年度 事業報告        |
| 資 料 2 | 2019年度 事業計画        |
| 資 料 3 | 登録者数推移             |
| 資 料 4 | 2018年度 レフェリー派遣一覧   |
| 資 料 5 | 神奈川県アイスホッケー連盟 規約   |
| 資 料 6 | 2018年度 役員体制（現行）    |
| 資 料 7 | 第74回国体、その他神奈川県代表選手 |
| 資 料 8 | 懲戒処分一覧             |

## 第1号議案 各委員会の報告及び今後の方針

### はじめに

県連運営にあたり協力いただいた全ての方々に御礼を申し上げます。今後とも当連盟にご厚情を賜り、連盟を盛り上げていく所存です。

#### 【強化事業】

事業計画に沿った強化事業は無事終了し、国体強化は特に力を入れたところです。将来を見据えジュニア強化を今後一層進めていかなければならないと感じております。

強化事業にご理解、ご協力を頂いた選手、保護者、強化スタッフの皆様には御礼を申し上げます。

強化事業では一部の担当者に大きな負担の掛かる現状は解消されておらず、特にジュニア強化は次世代を担う選手育成が大きな課題と認識しております。

#### 【国体について】

今回第74回国体は北海道釧路市で開催されました。少年は7位、成年は6位、トーナメント戦であることから早い段階で強豪チームと当たる運・不運はあります。ベスト4以上を目指して更なる向上を目指し努力して参ります。

#### 【日ア連事業】

アジアリーグは国内4チームによる集結戦を開催することができました。アイスホッケーファンには欠かせない例年のゲームであるため、アジアリーグ運営委員会へ継続開催の確保、試合数の増加をお願いしてまいります。

日本製紙クレインズは新たに「ひがし北海道クレインズ」としてアジアリーグに参加が内定しました。

アジアリーグ開催が決まりましたらスタッフの皆さんにご協力をお願いしてまいります。

#### 【普及関連事業】

U9の小学生低学年はクロスアイスの試合形式で大変盛り上がりを見せています。しかし、人口の減少とともに低学年のリンク事情も含め競技人口が減っており、レベルダウンが心配されるところです。当連盟として施設、時間帯等、スタッフ、関係者の協力を頂かないと運営に支障をきたす状況が多々ありますので更なるご厚情とご協力をお願いするところです。

#### 【課題】

アイスホッケーにおいても年齢を問わずプレーを継続して楽しむことが求められています。日ア連も「生涯スポーツ化委員会」が発足し活動が始まりました。ジュニア・女子の普及・育成、高校・大学の強化、社会人・オールドタイマーチームの充実等、アイスホッケーを楽しみ、真剣に練習、ゲームができる環境を整えていきたいと思っておりますのでご協力お願いいたします。

### 1 総務委員会 登録業務に関するまとめ

2018年度の県連登録者総数は1,495名でした。※資料3【登録者数推移】参照

これは、2017年度に比べ13名の増となっています。2010年度に2,000名を切ったからの減少傾向を止めることができていません。

今後も、選手で2,000名を越える県連にしていくよう努力を続けていきます。

2019年度から県連に新規加盟したいとの相談を4件受けました。

この内、チーム構成員・財政が不足、チーム所在地が県内にないことから登録を断念したチーム

があります。本代議員会では第 5 号議案により 2 チームの加盟を審議していただきます。推薦チームとなっていたいただいたチーム関係者の日常の交流等の結果として評価し、感謝申し上げます。

1999 年度以降、神奈川県で登録した選手・役員の情報を蓄積しています。個人情報管理する部署として守秘義務等、十分な配慮を行って処理しています。

## 2 医事委員会

日本スポーツ協会公認スポーツドクター養成講習会等に積極的に取り組み、専門医師の養成とケガの防止に力を入れています。

2018 年度の医事委員会の活動としましては、主に県内の小学生選手を対象として、安全指導講習会での講演(脳震盪をテーマとしました。)、および 11 月に KOSÉ 新横浜スケートセンターで開催されたアジアリーグ集結戦においては、選手および観客の応急処置などをアジアリーグ側より派遣された医師とともに担当いたしました。

今後、選手の方々がケガなく安全にプレーできるよう、医療情報の提供や啓蒙活動などのメディカルサポートを行っていきたくと考えております。

## 3 会計委員会

- (1) 各委員会別に予算を配分し、それに基づいた予算支出の総合管理は引き続き有効に機能しています。現在の予算枠残高は各委員会担当理事により、その用途管理が行われています。会計委員会は支出される内容が会計規則に則って正しく運用されているかを確認し、また、各チームの協力を得て収支を改善し、財務の適正管理を行っています。
- (2) 会計処理(入金と支出)の日常的な処理および会計業務の正確且つ迅速な処理ができるよう体制を強化し、各チーム残高についても、月 1 回以上の更新を心がけます。

## 4 広報委員会

### (1) 広報委員会の活動

“正確な情報を迅速に”という基本理念のもとに、2001 年 10 月 20 日に立ち上げ、2019 年 6 月 9 日現在、トップページアクセス数は 5,866,405 件に達しています。

広報委員会では本ホームページは「連盟加盟者によって育まれるべき」という考えを持っています。みなさんからの情報投稿や写真(トップ画面に使用)の提供を強く歓迎いたします。

また、各チームにあっては、引き続き [www.kihf.net](http://www.kihf.net) を連盟からの重要事項の伝達手段として活用してもらうよう、定期的な閲覧と掲示情報の確認をお願いします。

### (2) 成果

県連加盟チームだけではなく、不特定多数の日本中の方々へ情報提供が可能となり、アイスホッケーファン拡大に効果を見せています。現在、県内各大会の試合結果は概ね翌日の午前中に、県外大会も遅くとも大会終了後早急な掲載を心がけています。

また、各チームへの周知事項を HP 上で公開することにより今までは代表者への e-mail しか配信できなかった情報が代表者以外のメンバーにも伝達が可能となり、情報をより確実に、チームに伝えることができるようになりました。

### (3) 課題

HPは情報が最新であり、確実なものであることが求められます。つまり、更新はタイムリーに行う必要があります。専従職員のいない広報委員会では、自身から情報を収集することができません。試合結果の迅速な更新はひとえにオフィシャル当番による正確で、すばやい送信が不可欠です。情報をタイムリーにHPに反映するためにも大会運営担当者、大会参加者の深い理解と協力をお願いします。

また、専門知識を持った人材が今現在、広報委員会には不足しております。県連登録者やその知人の方で、HP運営にボランティアで協力いただける方の応募をお待ちしております。

一昨年度から若干のデザイン変更を行い、バナー広告欄を追加しました。まだ数ヶ所の空きがありますので、是非広告掲載の検討を宜しくお願い致します。

## 5 審議委員会・懲戒委員会

### (1) 審議委員会事項

昨年度の審議委員会において、対象チームに対し非常に厳しい判断として「一年間出場停止」の処分を科しました。対象チームは以前からペナルティーが連続しており、嚴重注意をしていたにもかかわらず試合においてラフティング、サードマンイン等、チーム管理が出来ておらず、他チーム選手に怪我の恐れもあると判断し決定したものです。

処分は2019年6月29日に解除されます。

この間、チーム所属選手から日ア連に移籍を求める文書が提出されましたが、日ア連として県連審議委員会の処分を支持する回答を当該選手に送付していただきました。

県連所属チームすべての代表者、監督はチーム力向上とともにルールの周知、オフィシャルの適切な履行等更なる尽力をお願いいたします。

当連盟はアイスホッケー規則に則りスポーツを推進し、暴力行為またはこれに近い行為などの根絶に向け努力して参ります。

残念なことに常識をわきまえていない加盟員がいます。喫煙の禁止されている場所で喫煙し、吸い殻を紙パックに入れゴミ箱に捨てる、という行為がありました。県連組織として当該施設から締め出される(使用禁止)ということになれば大会の開催ができなくなります。個人が特定されれば県連審議委員会により(除名を含む)嚴重な処分をかけなければなりません。このようなことが無いよう、個人ではなく県連組織の一員として行動してください。

### (2) 懲戒委員会事項

第66回神奈川県アイスホッケー選手権において4件の懲戒対象行為がありました。

相手選手にけがを負わせることを目的とした行為と判断すれば重い処分をかけざるを得ません。当該選手には猛省を促したいと思います。(資料3 懲戒及び処分一覧参照)

アイスホッケーは氷上の格闘技といわれていますがルールに則ったスポーツであります。各選手はルールを十分理解し、順守して試合に臨んでいただきたいと思っております。

また、未だにオンアイスオフィシャルに対しての抗議・暴言が一部で見受けられます。監督(ベンチ入り役員)は、選手に対し一層の教育・指導をお願い致します。

## 6 強化委員会

### (1) 成年強化について

2018 年度も例年より早く強化練習を開始しました。

代表メンバーは、日本体育大学・慶應大学・東海大学の学生を中心にしたメンバーで臨みましました。

1 回戦は京都府と対戦し、オーバertimeまでもつれる接戦でしたが、何とか 4-3 で勝つことが出来ました。2 回戦で香川県と対戦し終始リードし 7-1 で勝利しました。

準々決勝では青森県と対戦し、0-5 で負けてしまい、順位戦にまわりました。

宮城県に 4-2 で勝利しましたが、けが人等もあり、5-6 位決定戦では栃木県に 1-6 で敗れ、最終 6 位で終わりました。

### (2) 大学(2 種)強化について

2018 年度は、5~7 月に第 68 回大学リーグ戦を参加 4 校で横浜銀行アイスアリーナにて開催致しました。

(神奈川大学、横浜国立大学、東海大学医学部、聖マリアンナ医科大学) 優勝:神奈川大学

その他、連盟所属大学チームの県外活動では、当連盟が協賛する東京都連主催の関東大学リーグ戦と選手権大会に 3 校が参加しました。

関東大学リーグ戦 結果、

ディビジョン I B 5 位 神奈川大学 (入替戦勝利 ディビジョン I B に残留)

ディビジョン III 3 位 横浜国立大学

ディビジョン V 5 位 聖マリアンナ医科大学

関東大学選手権 結果

A グループ 13 位 神奈川大学

B グループ 3 位 横浜国立大学

また、東日本医科学学生総合体育大会(東医体)では 2 校が参加し、東海大学医学部が C リーグ 2 位、聖マリアンナ医科大学が C リーグ優勝の戦績でした。

県外の戦績は、力を出せたチーム・出せなかったチームが出てしまいました。

現在、大学のカリキュラム変更に伴い、各校で部活動時期にズレが生じ、大会の開催時期の見直しが必要とされます。これまで続けて来た大会を一度白紙に戻し、今の時代に合った新しいタイプの大会を来年度から開催出来るようにしたいと思います。

また、昨今のチームの課題は選手数の確保で、各大学とも苦慮を続けております。競技人口を増加させるためにも、強化の一環として他府県連盟所属大学との交流戦を視野に企画して参ります。

先ずは、県内の一般チームと交流し、強化試合を行いたいと思います。

### (3) 少年(高校生)強化について

2018 年は前年と同様に、予選が確定戦となり本番に向けて調整をして参りました。

確定戦では栃木県に 1-0 と戦うことができ、本戦に向けてのいい兆しが見えてきたかと思いましたが、本戦では 2 回戦の北海道戦では何もできず終わり、改めて実力の差を痛感しました。疲れに負ける、逃げるプレーをする、このような反省点を再三ミーティングで話し合っても、実際のゲームになると出てしまうところが今の弱いところかとも感じました。

改善策はまずは各チームでの日ごろからの練習、そして強化練習での基盤づくり。チーム作りが主な要素です。今年は予選から勝ち抜いていかななくてはなりませんので、例年よりも早くに選抜チームを活動させていただこうかと思えます。そして、予選を勝ち抜けるようなチームを選手と一緒にやっていくことが大事かと思えます。

引き続き高校強化にご理解ご協力をお願いいたします。

釧路国体結果・・・7 位入賞。

#### (4) ジュニア強化(小・中)/一貫指導強化委員会について

この年代は、育成に最も時間をかけ強化をする年代です。この年代の育成・強化が、高校・大学、そして社会人へのステップアップとしての重要な段階と位置づけられています。

今年度から U9(小学校低学年)のカテゴリーも普及委員会から強化委員会に管轄を移し、強化事業として行いました。

##### 【小学生】

U9 全国大会に出場した選手たちはみんな一生懸命やっておりました。ただ、中々思うようにすべることのできる選手がいないのも事実です。各チームでより基本的なことを反復して練習をやるようにするのが大事なのかなとも感じました。U9 のカテゴリーについては基本を忠実にやるということが、次のカテゴリーで大切かと感じました。各チームでもぜひ、U9 への取り組みをお願いいたします。

JTB杯争奪第 21 回全国選抜アイスホッケー・サマー大会(北海道苫小牧市) 6 位

第 14 回風越カップ全日本少年アイスホッケー大会 関東ブロック予選会(栃木県日光市) 予選突破し、4 年ぶりに全国大会に出場することが出来ました。

第 14 回風越カップ全日本少年アイスホッケー大会(長野県軽井沢市) 4 年ぶりの本戦出場でしたが、残念ながら予選リーグで敗退しました。

##### 【中学生】

第 39 回全国中学校体育大会アイスホッケー大会関東代表決定戦(栃木県日光市) 予選敗退

第 13 回全日本少年アイスホッケー大会(北海道釧路市) 12 位

小中学生に共通して感じられることですが、勝ちきれぬ試合、勝たなくてはいけない試合で最後まで集中力が続かない点が気になります。

2019 年度は、各大会の 2 か月前にトライアウトを行い、ベストのメンバーで試合に臨める様に進めていきたいと思えます。

#### (5) 女子強化について

女子強化委員会としては、(小学生)ジュニアレディーズ長野大会優勝、(中高生)日光杯全日本女子中高生大会ベスト 4、(女子)全日本女子(B)優勝を目指して活動しておりますが、例年練習枠を確保する事が困難で、思うような活動を進めることが厳しい状況です。

### 【小学生】

ジュニアレディース長野大会は、3月2日～3日に軽井沢風越公園アイスアリーナにて開催され、千葉県2名・山梨県3名・埼玉県6名・神奈川県6名の17名で参加しましたが残念ながら1勝を上げることが出来ませんでした。

しかしながらYOKOHAMA STARS 志田 真菜 選手が「ベスト6」に選ばれました。

### 【中高生】

JOCジュニアオリンピックカップ大会 第13回日光杯全日本女子中学・高校生アイスホッケー大会は、2016年度からJOC強化試合に指定され、大会の意義自体も大きく発展しました。

千葉県3名・山梨県5名・埼玉県6名・群馬県1名・神奈川県10名の25名で参加し、1回戦帯広選抜戦は0-2で惜敗し、2回戦は北信越選抜に9-0で快勝し、決勝トーナメントに進出できました。決勝トーナメント1回戦で帯広選抜との再戦となりましたが0-5で敗退しました。決勝トーナメント敗者戦で兵庫に1-0で勝利しベスト6に入りました。

### 【女子】

全日本女子アイスホッケー選手権大会(B)に関しては、関東ブロック代表として昭和大学ブルーウィンズが出場し、1回戦で軽井沢フェアリーズに7-0で勝利し、2回戦で真駒内レディースに10-4で勝利しました。準決勝では大東開発ネクサスに4-5で惜敗し、3位決定戦では札幌インフィニティズに5-6で惜敗しました。

依然として選抜チームとしての合同練習の時間確保が厳しい状態に変わりはありません。また、競技人口の減少が見られ、他県との合同チームの模索も続けていかなければなりません。神奈川県内の女子選手達が他都県に移籍しなくてもホッケーを続けていきたいと思える環境を作りたいと思います。

今後とも皆様のご理解とご協力をお願い致します。

## 7 競技委員会

2018年度の大会は、第66回神奈川県アイスホッケー選手権を前年度に引き続き当該年度中に完了させることとし、期間途中で第74回国民体育大会神奈川県予選会を実施しました。横浜銀行アイスアリーナをメインの会場とし、KOSÉ 新横浜スケートセンターで確保した枠を各部にできるだけ公平に割り当てることを考慮して試合日程を組みました。

第73回国体本戦終了後、横浜銀行アイスアリーナではダクトロニクス社のスコアボードを継続使用することとなり、これはKOSÉ 新横浜スケートセンターのスコアボードと共通の操作であることから、オフィシャル当番チームが実践をしました。課題は大事に、慎重に使用してもらうことです。短期間に操作盤の電源アダプタを2度交換しました。接続部のケーブル破断であり、慎重に扱えば起こらないことです。オフィシャル当番チームにあっては十分注意して取り扱いをお願いいたします。

第74回国民体育大会神奈川県予選会は、A pool 8チーム、B pool 30チームで実施しました。

第66回神奈川県アイスホッケー選手権は2018年9月16日から2019年3月下旬の期間で開催する計画で進めましたが、台風、リンク整備不良、降雪と3回の延期があり、最終試合は4月25

日と年度を超えてしまいました。参加各チームの協力に感謝します。

第 67 回神奈川県アイスホッケー選手権及び第 75 回国民体育大会神奈川県予選会は、2019 年 9 月初旬から開始し、年度内に終了する予定で計画しています。参加意思確認の日ア連登録、監督会議を事前に行います。

横浜銀行アイスアリーナの貸し切り・F 区分(22:30~24:00)を、横浜銀行アイスアリーナの抽選会以前に県連として確保し、加盟チームに配分しています。2018 年 9 月 1 日と 2019 年 3 月 30 日に行った配分打ち合わせ会では、県連主催大会開催枠を先行確保し、空き枠を打ち合わせ会に参加した加盟チームに抽選で渡しました。大会枠・チームの練習枠が夜間・深夜帯に限られる状況で、少しでも加盟チームの利益につながるよう今後も継続していきます。

## 8 普及委員会

### (1) 小・中学生・女子の普及について

リンク再整備を契機に、普及委員会では、ジュニアおよび女子選手の健全なる育成を目標に交渉し、横浜市体育協会のご理解を得て始まった横浜銀行アイスアリーナの毎週火・木・日曜日の D 区分(19:00~20:30)と E 区分(20:45~22:15)の貸し切り利用受託を、県体協競技力向上対策事業ジュニア強化練習(小・中学生)や、各ジュニアチーム、女子チーム、高校生へ貸与しております。

所属チームのご理解ご協力の下、リンク代の集金・支払い業務を普及委員会で担い、毎月締め翌月 5 日払いを完全履行しております。

2015 年 1 月からの 3 年間に及ぶこの実績が、横浜市体育協会・横浜銀行アイスアリーナとの絶大なる信頼関係を築き上げていることをご報告すると共に、関係各位のご尽力に感謝申し上げます。

小学生低学年の U9 クロスアイス減免措置を頂き、春季・秋季共に横浜銀行アイスアリーナで開催しました。ミニゴール 2 セットとブルーライン上に敷設するパーティション(2×4 角材)を、同リンクで倉庫保管しており、これら資材の運搬経費を削減するためでもあります。

一方、今年度も大会参加費の軽減のため、春季小中学生・女子および秋季小中学生神奈川県選手権大会を相模原市銀河アリーナで開催しました。

相模原市銀河アリーナは、当初平成 30 年度に閉館が予定されておりましたが、リンク再整備の目途が立たず、現状のまま今年度以降も営業を続けると聞いております。

今後も、県内競技施設の更新情報を見極め、大会開催会場の変更等を施設側と折衝して参ります。

また、IIHFのスローガンである「Fair Play and Respect」の精神をジュニア選手や高校生に深く認識してもらえよう、毎年安全指導講習会を開催しています。

おかげさまで、重篤な負傷事故も起こらず、現在に至っております。これも、多くの関係者の努力の賜物と、深く感謝申し上げます。

神奈川県においては、昭和大学ブルーウィンズの新規加盟により女子チームが 4 チームとなりました。小学生・中学生のジュニア部門は 5 チームが活動していますが、実態としては合同

チームを結成しなければ大会参加できない状況が続いております。

ジュニアチームのご理解を得て、一時途絶えていた「アイスホッケー体験会」を少しでも多く開き、選手の開発と育成に寄与して参りたいと思います。

## (2) インラインホッケーの普及について

2018年度の登録状況は男子登録 2 チーム(STIGA・maffick)、女子登録 3 チーム(Team SONIC・team maffick・peanuts)となり、チーム数などに変わりはありません。

2018年5月19日に開催された第21回関東インラインホッケー選手権は、上記5チームが参加しました。

2018年7月14～15日に開催された第21回全日本インラインホッケー選手権大会男子BプールはSTIGAが優勝、女子Lプールは優勝 Team SONIC、準優勝 team maffick、3位 peanutsと上位を独占しました。

神奈川には、フルリンクなどの設備がなく、活動が制限されている状況は残念なことではありません。さらに関東での地方予選でもレフリー不足は深刻であり、今後のレフリー講習会などを開催して幅広く人員を拡充していく必要があると思われます。

また大会の少なさも競技人口の減少、オフィシャル・レフリー不足を招いている要因でもあり、県内外の垣根を超え、またリンクの大小にとられない競技大会の開催が必要と思われます。

## (3) オールドタイマーの普及について

野球、サッカー、テニスなど多くのスポーツで年齢別の大会が行われています。アイスホッケーはボディコンタクトがある激しいスポーツでありながら、年齢というカテゴリー分けがあまり進んでいない競技でありました。アイスホッケーは年齢が進むと引退するスポーツではなく、生涯楽しめるスポーツとなるべく、日ア連も「生涯スポーツ化委員会」が発足し活動しています。

日ア連のオールドタイマー全日本大会では50代、60代、70代と年齢カテゴリーが分かれています。また、社会人大会として40代を中心とした大会も行われようとしています。神奈川県でもこのようにあらゆる年代で、アイスホッケーが楽しめる環境を整えていきたいと思っております。

現在、神奈川県のオールドタイマーチームは、日ア連登録チームが1、登録にむけ準備をしているチームが3あります。2018年度はこの4チームで春季、秋季の大会を楽しむことができました。さらにチームが増え、正式な日ア連登録チームとして公式戦を行うことが、目標です。2019年度もそのプレ大会を企画いたします。社会人リーグから上へのステップアップを考えているかた、気軽にオールドタイマー委員会へご相談ください。

## 9 レフェリー委員会

2018年については、県内にて全国大会の様な大きな大会などは有りませんでした。

平昌オリンピックが開催され4年ごとのルール改正があり、小学生のカテゴリーにて、ボディチェックが禁止になりました。日本においては10歳以下のクロスアイス形式の大会になってからはボディチェックはなくなりましたが、12歳以下の大会でも適応となりました。そのほかでは大きな変更点は見受けられませんが、一つ一つの内容を確認したところ、今までの日本語でのルール解釈とは違ったところが何点も見受けられました。

県内のレフェリーだけでもジャッジの統一を図ることに時間がかかり、他県のレフェリーたちとの整合を取り修正をしながらになりましたが、シーズンの終盤に何とか合わせる事ができた状態でし

た。

来シーズンについては、この改正点を更到的確に実践し、レフェリー3人の技術向上につなげてまいります。

次に、毎年度この話が出ますが今年度のレフェリー登録者が29名でしたがこの中で月に1回以上氷上に乗られた人数は、17人のレフェリーでした。

単純に1月30試合で1試合3名必要ですので、90人/17人=1人平均で5回レフェリーに時間を費やす計算になります。前年度にも書かせていただきましたがレフェリーの人手不足は、年々深刻になってきています。

次年度については、大幅に増えることは期待出来ませんが、個人的な事情で更に人数が減ることは想定されます。

来シーズンには、改めてレフェリー委員会より各チームに最低1名の公認レフェリーを登録、配置する方向で各チームに要請をさせていただき予定です。

是非とも趣旨をご理解いただきご協力のほどよろしくお願いいたします。

内容については、レフェリー委員会にて纏まり次第連絡をさせていただきます。

最後に、選手の皆様とはお互い良好な立場で試合を遂行していきたいと思っておりますのでどうぞよろしくお願いいたします。

## 10 日ア連事業について

### (1) アジアリーグアイスホッケーについて

2018-2019シーズンは1年ぶりに国内4チームの集結戦が行われました。

【アジアリーグニュース(2019/6/7)】新規加盟チームについてのお知らせ

アジアリーグアイスホッケー(チェアマン:小林澄生)は、新規加盟申請があった「ひがし北海道クレインズ」のアジアリーグアイスホッケー2019-2020シーズンの加盟につきまして、正式に決定しましたことをご知らせいたします。

#### ■新規加盟チーム

チーム名: ひがし北海道クレインズ

運営会社: ひがし北海道クレインズ合同会社

#### ■アジアリーグアイスホッケー2019-2020シーズン 参加チーム(7チーム)

アニャンハルラ(韓国)、デミョンキラーホエールズ(韓国)、サハリン(ロシア)、王子イーグルス(日本)、東北フリーブレイズ(日本)、H.C.栃木日光アイスバックス(日本)、ひがし北海道クレインズ(日本)

(アジアリーグ HP から引用)

県連としても、少しでも早く情報を把握し、2019-2020シーズンに1試合でも多く誘致できる体制で臨もうと思います。

### (2) 第7回日本アイスホッケー連盟会長杯

第7回日本アイスホッケー連盟会長杯が岡山県倉敷市と岡山市で開催されました。

本県からは、チームハセガワが出場しましたが、1回戦で香川県と対戦し敗退しました。

### (3) J-ICE について

昨年同様、愛知県名古屋市で開催されましたが、本県からは出場がありませんでした。